

‘紅まどんな’の摘果剤利用と散布効果

摘果剤(ターム水溶剤)利用で、落果は促進され、摘果作業時間の短縮と収穫時の果実肥大が優れる傾向がみられる。使用の際は、肥大の劣る内・裾枝の摘果を目的とする樹冠下部散布が適する。

試験区

供試樹：9年生紅まどんな(2015年)
 供試剤：ターム水溶剤(NAA)
 満開日：5/15
 散布日：5/27(最高気温28℃)
 散布濃度：1,000倍
 散布方法：上部散布、下部散布
 無処理
 摘果日：6/24、6/30



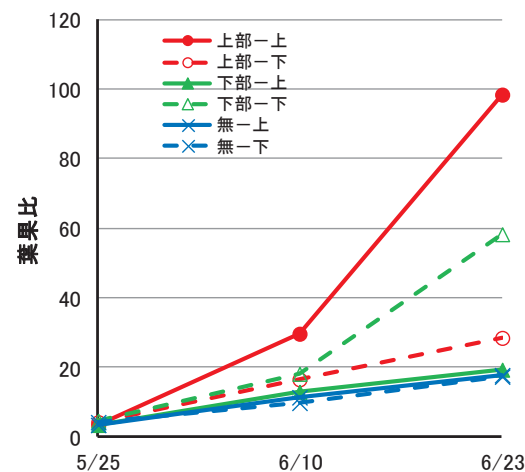
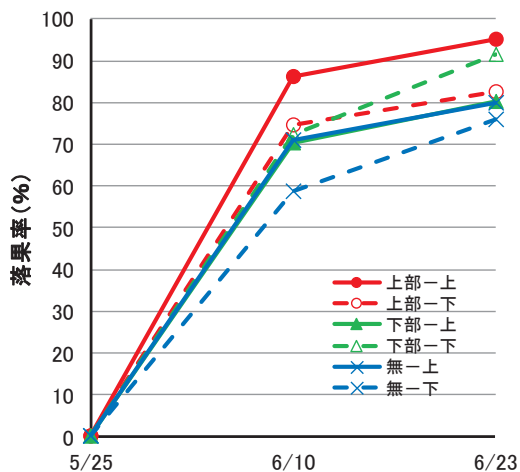
摘果時間

試験区	摘果時間		指数
	分/樹	hr/10a	
上部散布	20.5	34.2	72
下部散布	24.5	40.9	86
無処理	28.5	47.5	100

注)100本植え、指数:無処理を100とした場合

摘果時間の短縮効果がみられる

摘果効果



散布部位の落果は促進され、葉果比は有意に高まる

品質

試験区	調査部位	果実ヨコ径 (cm)	1果重 (g)	Brix	クエン酸 (g/100ml)
上部散布	上	8.71 a	331 a	12.5	1.14
	下	8.50 ab	295 ab	11.8	1.07
下部散布	上	8.51 ab	302 ab	12.1	1.06
	下	8.34 ab	275 ab	12.0	1.02
無処理	上	8.12 ab	258 ab	12.3	1.06
	下	7.73 b	226 b	12.4	1.05
有意性		*	*	ns	ns

注)調査日:11月21日、異符号間に5%水準で有意差あり(n=5)

NAA散布区は、収穫時の果実肥大が優れる